かささぎ 通信 第87号

毎月第2金曜日 13：30～15：30
刈谷市中央図書館研修室　参加自由

2019年　12月　13日　発行
森三郎刈谷市民の会「森三郎の作品を読む会」

二〇一九年十一月の「森三郎の作品を読む会」では『森三郎童話選集夜長物語』（1996年、刈谷市教育委員会）所収の「春告鳥」を読みました。

「春告げ鳥」は、一九四九年刊の『幼年童話集　帽子に化けたクロネコ他数編』（東京一陽社）所収の作品です。『幼年童話集　帽子に化けたクロネコ他数編』には次の十六編の話が載っています。

帽子に化けたクロネコ（『森三郎童話選集　かささぎ物語』所収）一九四七、八年頃の経済の混乱した時期の話／あねさま人形　江戸時代を舞台にした、買われた今戸焼の姉さま人形の運命の話／アオイの大臣（『森三郎童話選集　かささぎ物語』所収）平安時代を舞台に、愛する人とその子どもの命を救う話／ザアカイとユリ　新約聖書をもとにした話／新葛の葉ものがたり（『森三郎童話選集　かささぎ物語』所収）「竹取物語」の中の歌をヒントにした話／銀（しろがね）の馬車　失った幸福を訪ねて旅をする老人との問答／唐からお年玉　乙姫様と別れた浦島太郎がまた竜宮に戻る「浦島太郎」のパロディー、終戦直後の話／カエルのへそ　小野道風と蛙のパロディー、横井也有の「見つけたり蛙にへそのなきことを」の句から取った題名／春告鳥／いのちの花輪　一九四五年前後の混乱の時代の話、自伝的な話／灰いろの蝶　夢の世界を第一の現実という男との問答　男に貰った灰色のドーナツが蝶になる／山のあなた（『森三郎童話選集　夜長物語』所収）姫と命を吹き込まれた身代わりの人形との数奇な運命、カールブッセの詩を織り込む／大正琴　子どもの頃の幸せが大人になってからも続くと思っていた作者の子ども時代の思い出／ジャンケン橋（『森三郎童話選集　かささぎ物語』所収）　夜になるとジャンケン坊主が出るという橋のかかる川で遊んだ仲良しの二人の話／ヒバリ　東京からの転校生と友達になった少年が触れた担任の先生の人間性／夕顔観音（『森三郎童話選集　かささぎ物語』所収の「夕顔物語」とは別の話）ホタルの沢のほとりの観音堂にまつわる、侍の運命に翻弄される若者と姫の話。中編の物語。

以上の話は時代も場所も様々ですが、生と死、運命というような問題を多く取り上げています。問答形式で構成されている作品が見られるのも、観念的な話題を取り上げているからでしょう。

今回取り上げた「春告鳥」も、天上で神に対して犯した罪をこの地上で償って、もう一度祝福されて天の神の国に帰る話です。話の中に登場するのは楓・お梅の姉妹と隣に住む春彦という若者です。春彦がお嫁さんに欲しいと願っていた楓が病気になって死んでしまいますが、まだ死の時ではないと天の使いに追い返されます。今度は神様から「美しい声」をもらって小鳥になり、春彦のそばで見守ります。春彦は楓を失った悲しみが薄れ、お梅と結婚することになりますが、その間、小鳥は二度までも春彦の命を救います。しかし春彦やお梅にはそれが分かりません。最後には小鳥は自分の命を落とすことになり、それで試練は終わって、「ホーホケキョ」と明るい調子の歌を歌い光の中へ飛び去って行きました。

キリスト教の聖書の中の言葉を引用しているような気もしますが、「業を果たす」という言葉で死を説明されていて、どの宗教ということはなく、三郎さんが生きるということを考えていたのではないかと、集まった皆で話し合いました。『幼年童話集』というには難しいという感想も出ました。この童話集の中には詩や歌が大事な要素になっている話が多く、三郎さんがその後童謡を書くようになる過渡期ではないかという気もします。

次回「森三郎の作品を読む会」　二〇二〇年一月十日（金）　午後一時半～三時半
「副級長」「だだっ子」（『森三郎童話選集　夜長物語』所収）